

■ 無言のラザロ

人々が墓の石をとりわけると、イエス様は大声で叫びました。

「ラザロよ、出て来なさい。」

そして、そこにいた人々はラザロの体の布をほどき、彼を自由にしました。

ところが、聖書にラザロの言葉は一言も記されていません。よみがえったラザロは一体何を感じたのでしょうか。墓から出てきて、再びこの世の景色を眺めながら何を思ったのでしょうか。

きっと目に見えるすべてが以前とは違っていたことでしょう。

■ メッセージのポイント

- (1) しるしを見た人たちの反応 - 多くの人がイエス様を信じました。しかし、中にはイエスの敵対者にそのしるしのことを伝える人たちがいました。

- (2) 指導者たちの関心事 - 祭司長・パリサイ人たちが気に掛けたのは、イエス様のしるしの意味ではありませんでした。危うくなりつつある自分たちの栄誉を心配しました。

- (3) 人間の企みを超えた神のご計画 - 祭司長・パリサイ人たちは宗教・政治的な動機でイエス様を殺そうと企みました。しかし、人間の企みも用いて神様は贖いのご計画を成してくださいました。